

# 伊方から原発をなくす会だより

伊方から原発をなくす会は『まちづくりネットワーク・八幡浜』を運営する会です。

★今年も梅雨の終わりの大雨による土砂崩れや浸水の被害が起こっています。みなさまのところはいかがでしょうか。被害にあわれた方々に謹んでお見舞いを申し上げます。★大雨で被災された人たち、コロナ渦で職を失ったり営業が出来なくなったりした人たち、フクイチの原発震災を初め様々な被災で仮設住宅での生活を強いられている人たちと、数え切れない人たちが日常生活に困窮されているのに、オリンピック開催を『人数制限』だの『無観客』などと議論(?)している国を情けなく思います。★そして、これが『自助』を優先する菅総理の真骨頂だと痛感しています。(文責 秦)



## 伊方原発で事故対応要員が無断外出

県は7月2日に、伊方原発で保安規定の不適合事案が2017年から2019年までに5回あったと発表しました。土日祝日に宿直していた社員が、最大約2時間無断外出し、重大事故対応の構内待機に必要な要員22名を満たしていない時間帯があったということです。この保安規定は、東京電力福島第一原発後に出来た新規制基準に従って、2016年4月に四電が策定したものです。



この社員は、5回とも社用車で無断外出し、会社のガソリンチケットを使い、私用のガソリンを容器に給油していたとして、約38万円の横領で停職6ヶ月の懲戒処分を受け、今年1月に自主退職をしています。

### 伊方原発に文書で抗議

2日の21時に友人から「今、ニュースで…やっぱり四電は信用出来へんわ」と怒りラインが着て、私はこの件を知りました。

実は3日に伊方町でのポストイングを予定していたので、八幡浜在住のK女史と高松在住のN氏に連絡を取り、抗議文を出すことを決定し、翌3日に伊方原発に手渡しました。

### この件は疑惑だらけで胡散臭いぞ四電

第一で最大の疑問は、保安規定に抵触するこの案件の5日の日付が明確にされていないことです。原発は稼働していたのか、していなかったのかです。抗議時に対応した職員に聞きましたが応えず、後日文書で連絡するとの返答でしたが現時点(9日)では連絡はありません。

第二の疑問は、無断外出の社員は『横領』で懲戒処分を受けているのです。この横領のときに職務違反である無断外出が何故問題にならなかったのでしょうか。

第三の疑問は、5回で38万円のガソリン横領って1回で76,000円です。仮に150円/ℓとして506ℓで、家庭用の灯油缶25缶です。本当に無断外出は5回なののでしょうか。

第四の疑問は、一緒に宿直していた社員の人たちはこの無断外出に気付かなかったのでしょうか。まさか無断外出が日常化しているのではないですよね。

無断外出したのは個人ですが、四国電力の企業としてあるべきモラルやリスクマネジメントに欠けている構造的資質が、個人のこのような行為を容認しているのです。発覚も遅ければ対処もお粗末。だらしくルーズで、おまけに他に何か大事なことを隠蔽しているのではないかと思わせるような事案です。「当事者は自主退職しました」では決して済まされません。



## やっぱり稼働中の無断外出だった

8日付愛媛新聞によると、5回の無断外出のうち、2回は3号機が稼働中であり、原子力規制委員会の更田豊志委員長は、四電に「福島第一原発事故を忘れたのか」と苦言を呈し、「気を引き締めてもらいたい」と求めたとのこと。

規制委員会の委員長がこんな精神論で苦言を呈して済む案件なのではないでしょうか。無断外出していた職員は、重大事故時に炉心に冷却水を供給する配管の保全などを担当する『配管接続班長』を務めていたのです。もし、そのときに事故が起きて炉心に冷却水の供給が出来なかったとしたら…恐ろしいことです。

福島第一原発事故を教訓にして策定した緊急時対応要員が無断外出した。そしてそれに3年間も気付かなかった。対策を立てても、それが出来ず、その対策も必要となる企業に、『安全』など望めるはずもなく、増してや『安心』など出来るはずありません。ただでさえ危険な原発が、さらに危険度アップして、私たちは不安と恐怖に苛まれる日常を強いられるのです。

伊方原発は、南海トラフ巨大地震も中央構造線・活断層地震に加え、核を扱っているという認識の薄さによるケアレスミスで、私たちの命を脅かしています。

伊方原発には廃炉以外の選択肢はありません。

## 抗議文

四国電力株式会社  
取締役社長 長井啓介様

7月2日、伊方原発の緊急要員22名と保安規定に定められているにもかかわらず、四国電力社員の配管担当者1名が不正に無断外出を繰り返していた事を報道で知りました。保安員不足で稼働させることは保安規定違反です。原発を稼働させてはいけません。2019年2020年と重大事故を何度も起こすたびに「再発防止に努める」と発言し、今回も再発防止に努め再稼働に影響はないと発言したことに私たちは怒り心頭です。

貴社がこれからする仕事は、本社員・下請け社員に危険な核を扱っているという自覚を持たせ、教育をすることです。そして再稼働をしないことです。

伊方原発3号機を稼働させるということは、私たちの命を軽く扱うということです。

私たちが、安心・安全に被ばくせずに暮らす為に伊方原発3号機の廃炉を要求します。

2021年7月3日

伊方から原発をなくす会  
代表 近藤亨子

## 伊方原発敷地直下41kmで発生するマグニチュード9.0の南海トラフ巨大地震で 原発敷地の地震動は181ガル?!

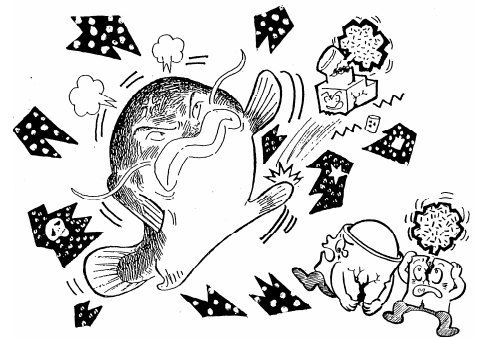
この地震動は四国電力が強振動予測という計算法でした結果で、現在進行中の広島新規仮処分で四国電力が主張しているそうです。

マグニチュード9.0(以下M9.0)という規模の地震は、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震で、これが日本の観測史上最大規模の地震で東日本大震災を起こし、福島第一原発を破壊しました。このとき、震源から175kmの宮城県築館で2933ガルが観測されています。

日本で地震観測網が整備されて以来の最大の地震動は、2008年6月14日のM7.2岩手・宮城内陸地震で、震源から3kmの岩手県一関西の観測点で記録した4022ガルです。

M7.2というのは、M9.0のエネルギーの1000ぶんの1弱です。

これらを考え合わせると、四国電力の予測値181ガルは常軌を逸した地震動と言わざるを得ません。



**地震動181ガルで基準地震動650ガルの伊方原発は  
南海トラフ巨大地震にも中央構造線・活断層地震にも耐えられない。**

カンパのご協力ご支援を  
よろしくお願い致します。

ゆうちょ銀行

記号16100 番号25818461

まちづくりネットワーク八幡浜

四電は10月12日に伊方原発再稼働を予定しています。この夏はコロナ対策でオリパラの自宅観戦が推奨されています。昼間ですから猛暑対策の冷房も全開でしょう。でも四電は『安定供給』が出来るのですね。安定供給のための原発なしで…素晴らしいことですね。(H)